

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	にいがたケアセンターそよ風
(ユニット名)	しゃくなげ
所在地 (県・市町村名)	新潟市西区善久450-11
記入者名 (管理者)	高橋 奈美
記入日	平成20年 11月17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	そよ風独自の理念を作り上げている。		これからも理念に基づき取り組んで行きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が朝礼や会議等を通して理念を共有し、実践に向けて話し合い取り組んでいる。		今後も日々話し合い共有して実践して行きたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	生き生きサロン、運営推進会議、行事等の機会を通して理解してもらえようように話し合っている。		生き生きサロン、運営推進会議、行事等の機会を通して今後も理解してもらえようようにしたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所のボランティアの方との交流や、近所の方へのこちらのあいさつを心がけている。また、生き生きサロン		今後も積極的に外出したり、気軽に立ち寄れるようにして付き合いを深め、知らない方々にも興味を持って頂けるように、努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭に参加したり、公民館のイベントに参加したりと交流している。		地域の方々との交流の場をもっと広げていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月1回、集まり情報交換をし、議題を決めて話合っています。		これからも、話し合い、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいる。		今後も具体的に改善し、取り組んでいきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告、話し合いを行い、サービス向上に活かしている		今後も意見を反映し、サービス向上に活かしていきたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも行き来している		今後も行き来して、サービスの質の向上に取り組んで生きたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全体会議や内部研修で学ぶ機会を設けている。必要な人には活用できるよう支援している。		今後も学ぶ機会を定期的に持ちたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や内部研修で学ぶ機会を持ち、防止に努めている		今後も学ぶ機会を定期的に持ち、防止に努めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	こちらからも尋ね、不安・疑問点等、十分に説明し、理解・納得を図っている。		今後も十分説明して、理解・納得を図れるようにしていきたい
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議で意見等を言ってもらい、運営に反映させている。介護相談員が定期的に訪問もして、外部者へ表せる機会もある		運営推進会議や介護相談員訪問等の機会を今後も運営に反映させていきたい
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月一回、個別に日々の暮らしぶりを報告書という形で、また明細書等も送付している。何か変化があれば、その都度電話又は面会時報告している		報告書・新聞等、変化をつけて報告していく
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議で意見等を言ってもらったり、職員側から尋ね、何かあれば答え、運営に反映させている		今後も家族等にこちらから聞いたりして、運営に反映させていきたい
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月一回の全体会議時に設け、反映させている		日々、職員の意見や提案を聞き、反映させていきたい
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務を調整し、柔軟な対応が出来るように努めている。		職員欠員時が多くあるので職員人数を確保し、もっと柔軟に対応していきたい
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動や離職は最小限に抑える努力をしている。利用者へのダメージを防ぐよう、事前に話したり、他職員がフォローできるようにしている。		今後も必要最小限に抑え、利用者へのダメージを防ぎたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	支社別で毎月職員の各段階に応じて計画を立ててテーマを設け、定期的に研修を行っている。法人外の研修も受けている		法人外でも、介護現場に欠かせない研修等を受ける機会を今後も見逃さず、受けていきたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等を通じて交流する機会を持ち、サービスの質を向上させている		もう少し積極的に交流する機会を持ちたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不定期で飲み会を行ったり、休憩室が広く、ゆっくりくつろげる空間になっており、工夫している		定期的に話し合いも行っており、今後も続けていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自、面接を行い、ゆっくり話す機会を設け、把握している。		今後も向上心を持って働けるよう、話していきたい
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくりと話を聞き、受け止める努力をしている		今後も話を聴き、受け止める努力をしていきたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくりと話を聴いたり、話し合い、受け止める努力をしている		ゆっくり話し合って受け止めていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談し、他のサービス利用も含めた対応をしている		必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応をしていきたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染めるよう、職員が仲介に入り、他入居者との交流の場を作ったり、声かけしたりしている。家族と相談を常にししながら調整したりしている		本人が安心していただけるよう、職員が常に配慮し、工夫していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人とともに過ごし、学んだり、支えあったりしている		本人とともにゆっくり過ごしてコミュニケーションをとり、本人より学んだりする機会を増やしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と話し合い、一緒に支えあっていくようにしている		職員は家族と話す機会を増やし、一緒に支えあっていききたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に最近の様子を家族に伝え、関係がより良いものとなるよう支援している		今後も本人・家族との関係をより良いものと出来るよう、支援していきたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場の話をしたり、馴染みの人との面会を支援している。ケアプランで馴染みの場に行ったりもしている		今後も日常会話の中でなじみのあることを交えながら会話し、支援につなげていきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士でレクリエーションをしたり、他ユニットの利用者と交流したり、孤立せず関われるようにしている。		孤立しないよう、把握し、支援して生きた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、電話や手紙等で連絡を取ったり、他施設に移られた場合は面会したりしている		今後も連絡を断ち切らないつきあいをしていきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を聞き、日常のコミュニケーションの中で意向把握に努めている		可能な限り、希望等取り入れながら支援していきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時・面会時に家族に聞いたり、本人に聞いたりして把握に努めている		今後も把握に努め、サービス向上に役立てて生きたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日中の状態や夜間の状態が変わった事がないか送りを聞く。ノートをチェックするなどして把握するよう努めている		状態観察は常に行う。一人ひとりの現状を把握していく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に家族の希望を聞き、本人とも相談しながら作成している		各居室担当だけでなくその都度思いついたことなど、グループ全体や本人とで相談し、ケア計画を立て実行していく
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画立てるものの、喜んで成功する場合となかなか出来なかったりする場合があり、本人・家族・職員で相談し、別の計画を立てている		出来なかったこと(計画)は何度も行わずに出来そうなプランを作成する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別記録に行ったことや話したことを、その都度記入し情報を共有している。		職員によっても利用者によっても違うため、気づいたことや情報はどんなことでも共有する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会や電話での事前連絡に応じて、外出や外泊などを行っている。また、デイサービスのレクへの参加をしている		今後も連携して支援していく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に何度かボランティアの方が来られ、警察・消防等を協力している		今後も協力して支援していく。ボランティアの方は色々来ていただいて交流・協力する。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		今後も必要に応じて支援していく
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じて地域包括支援センターと協働している		必要に応じて協働していく
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけの内科から往診していただいている。それ以外は必要に応じて受診を行っている		受診などはNSやDrと相談し早めの対応をしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の医師と関係を築き、支援している		専門医が居れば相談して支援していきたい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員がわからないこと、判断できないことは、NSに相談し、指示のもと支援している		わからないことは勝手に判断せず、相談して行っていく
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	こちらから面会に行き、情報交換や相談に努めている		お互いの情報交換を密に行い、対応していきたい
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族、かかりつけ医と話し合い、対応している		本人や家族の意見を尊重し、かかりつけ医の情報も報告して早めの対応をしていく
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様の状態をかかりつけ医に報告し、応じた支援を行っている。職員も統一してそれを行っている。		医療的なことはかかりつけ医とよく相談し、無理な対応はしない
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリーを送り、情報交換をしている。又は実態調査を行い、話し合いをしている		生活の変化によるダメージを、情報交換を十分して防いでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人それぞれに応じた言葉かけを行い、十分気配りしている	今後も一人ひとりに応じた対応をしていきたい
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	聞きやすい、話しやすいようにゆっくり話しかけたり、必要に応じて大きな声で話をして、自己決定していただいている。	同じ事を何度も聞かれても、笑顔で説明し対応していきたい
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調、ペースに合わせ、希望にそって支援している	今後も一人ひとりのペースに合わせ、職員側の決まりや都合を優先せずに行っていきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回、床屋さんに来て下さるが、毛染め等で美容室に行ったり、化粧・マニキュア等もその人に合わせた対応をしている	化粧道具を揃えたり、美容室に行ったり、今後もその人に合わせた対応をしていきたい
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。立位が取れない人にも座って出来るよう、場所を変えたりして行っている	今後も一緒に行き、一人ひとりの力に合わせてやっていきたい
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に合わせて飲み物等を支援している	一人ひとり希望する物を支援していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのパターンを知り、支援している		排泄の失敗等、今後も減らしていけるようにしていきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を声がけし、体調面も考慮して入浴を勧んでいただいている。希望で毎日されない方もいる。		時間の希望がない為、いつも同じ時間だが今後考えていきたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自由に日中も休息時間を取っていただいている。		今後も安心して休息できるようにしていきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特技の披露する場を作ったり、役割・外出等支援している。		一人ひとりの生活歴を踏まえ、支援していく
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使えるように支援しているが、所持はしておらず職員管理となっている		欲しい物や必需品等いつでも買えるよう支援している
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良いときは日光浴やドライブに出かけたり、ケアプランで外出したりしている。また、日々の買い物にも行っている		今後も希望にそって出かけられるような支援していく
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	福祉バスでの紅葉狩り、お花見や希望のところに行けるよう支援している		季節季節楽しんでいただける場所の機会を作り出かせたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話でされる方もいるが、ほとんどの方は手紙・電話で先方から連絡が来ることが多く、声かけにて手紙で返事を書く方もいる		職員が声かけし、電話や手紙を書く機会を増やしたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	頻繁に訪問に来られ、職員が配慮し、居心地良く過ごせるようにしている		先方様の都合の良い時来られ、おみやげをいただきながらフロア・居室と楽しくお話されている
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない取り組みは会議に持ち出し話し合っている。		身体拘束を今後もしないよう、定期的話し合いたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも出入り自由に鍵はかけていない		フロアの出入り、居室の鍵はまったくかけないケアで取り組んでいる
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子を職員が把握し、安全に配慮している		利用者の所在確認を職員一人ひとり注意し、見守っていく
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はり箱や包丁等、場所を決めておいている		必要・要望の物品は保管場所から提供している
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的話し合い、ヒヤリハット等も用いて事故防止に取り組んでいる		一人ひとりの状態に応じて今後も取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練時に初期対応の訓練を行っている(年2回)		内部研修でも取り上げてやっていきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練時に避難方法を聞いている。地域の人々の協力が得られるような働きかけが少し足りない		いきいきサロンや行事の参加等を通じて地域の人々の協力を得られるよう働きかけていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時にも説明しているが、一人ひとりに起こり得るリスクもその都度説明し、家族等と話し合っている		状態が変わったりしたら、すぐに話し合っていきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の変化や異変の発見に努め、申し送り等で情報共有し、対応している		今後も速やかに対応していきたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等を処方箋を見たり、医師・薬剤師に確認したりして理解し、支援している		症状の変化等観察し、対応していく
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い物や牛乳等便通を良くする物を摂取するよう心がけ、体操等で身体を動かすようにしている		料理の方法や違う飲み物等を工夫していきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食している方としていない方がいる		声かけし、毎食後全員が行うよう支援していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士によるメニューで作っている為、確保できている。水分補給は食事以外にも10時やおやつ時、入浴後等適宜取れるようにしている		本人の希望時、希望する飲み物を飲まれている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種をしたり、手洗いうがいの励行、また、マニュアルがあり、対応・実行している		定期的に内部研修で取り上げている
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週3回買い物に行き、新鮮で安全な食材を使用し、調理用具の消毒・定期的な台所清掃を行っている		今後もまめに衛生管理を行っていきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	そよ風の看板があり、草花の工夫・行事等のポスターを貼り、出入りしやすいようにしている		今後も工夫して出入りがしやすいようにしていきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の書道やカレンダー、季節の花等を取り入れて飾ったりしている		もう少し季節感のある工夫をしていきたい
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳、イス等の場所の空間が分かれており、好きな場所で仲の良い利用者同士で過ごせるようにしている		利用者が変わったりしたときはその都度考えていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物が少ない。好みの物を増やしたりはしている		使い慣れた物が少ない為、家族の協力のもと、増やしていきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気をし、利用者に聞いて温度調節している		今後も利用者の状況に応じて、こまめに行っていきたい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や段差をなくした構造でエアロバイクや平行棒での身体機能向上を目指したり、階段昇降等を取り入れている		できるだけ身体機能を活かして生活できるよう、職員も働きかけていく
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとり、情報収集してわかる力を知り、出来ることをやっていただき、自立して暮らせるようにしている		わかる力を知り、活かして混乱等ないように職員が配慮工夫していきたい
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに椅子を置いたりすることで外で休んだり、活動したり出来るようにしている		もう少しベランダを活用していきたい

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者中心で生活していただけるよう、職員が利用者の力を把握し、支持している。外出を日常的に行っている。誰でも入りやすい雰囲気作りをしている